

一般質問

10人の議員から19件の一般質問

一般質問とは？

議員が、町の一般事務に対してその執行の状況または将来の方針、政策的提言や行政への批判などを執行者に直接質問することです。

質問の範囲は、町の行財政全般のほか、地域の問題や住民生活に関わる事項など多岐にわたっています。



村山 正利 議員（自民新国会）

教育行政を問う

教育長 計画に沿って施策を鋭意進めていく

質問 27年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正された。これは、約60年ぶりとなる教育委員会制度の改革で、首長の意見を反映させる仕組みが導入されたと理解している。現在、経過措置のなかで委員会運営に努めているが、今後、制度の導入にあたっての課題や問題点をどう捉えているのか。また、教育長に就任して2年目を迎え、今後の瑞穂の教育をどのように導こうとしているのか所見を伺う。



フューチャースクールの様子（二中）

質的な責任者である教育長が、迅速かつ透明性を持った対処を心掛けるべきと考える。今後、社会教育や文化・芸術分野では、長期総合計画の施策内容を基本とし、学校教育では、第1次瑞穂町教育基本計画に沿って施策を鋭意進めていく。現在、児童・生徒の学力向上を最も大きな課題とし、新たな施策の展開に取り組んでいる。

原 隆夫 議員（公明党）

軽度・中等度難聴者（児）補聴器購入費助成制度の導入を

町長 中等度難聴児に対し、28年度予算に計上する

質問 高度難聴者は身体障害者手帳が交付され、障害者総合支援法に基づく補装具費（補聴器の購入費）の助成を受けられる。しかし、軽度・中等度難聴者は身体障害者手帳が交付されず、医師から「補聴器の装着が必要」と診断されても助成を受けられない。補聴器は耐用年数が5年程で、数万円から十数万円と高額なため経済的負担が大きい。購入費助成を始める自治体も増えている。我が町も早急に導入すべきと考えるが、町長の所見を伺う。



耳かけ型補聴器（一例）

町長 コミュニケーション能力を向上させるべき年代でありながら、身体障害者手帳の交付対象とならない18歳未満の中等度難聴児については、補助制度もなく、何らかの支援が必要と考える。幸い市区町村が実施する補助に対し、都も補助を実施してい

町長 本年度9月に防災訓練を実施したが、自主防災組織が前面に出て活動するようになり、内容は、徐々に変化を見せ始めている。今後、訓練を更に良いものにするため、次の点について伺う。

問① 避難所運営訓練は時期尚早と思うが、避難所開設訓練を実施すべきでは。



9月に行われた防災訓練の様子（町営グラウンド）

町長 一部の自主防災組織で避難所開設の訓練や災害を想定した宿泊訓練を実施するなど、地域での避難所運営に対する関心が高まっている。今後、これらの訓練を広く紹介し、避難所運営など自主防災力の向上に努める。

町長 福生警察署をはじめ自主防災組織や防犯協会など関係機関との連携を図り、各町内単位での被災後の活動にも関心を高めるよう働きかけた。



吉野 一夫 議員（自民新国会）

防災訓練について問う

町長 自主防災力の向上に努める

こんな質問もありました

老人クラブへのサポート体制について問う

町長 円滑な運営と発展を共に考え、積極的な支援に努めていく。